

環境省 持続可能な開発目標 (SDGs) 活用した地域の環 境課題と社会課題を同時解決 するための民間活動支援事業

里山保全体験を通した障がい者雇用促進を目指す
プログラム事業

2カ年の事業報告

里山ウェルネス研究会



環境省 SDG s 同時解決事業とは？

持続可能な開発目標（SDGs）活用した地域の環境課題と社会課題を同時解決するための民間活動支援事業

- 地域において複雑に絡み合う環境課題と社会課題に対して、協働の手法やSDGsを活用し、それら課題を統合的に進める事業
- 各採択事業では、それぞれの課題との関係の深化、ステークホルダーの拡大、課題解決の加速化等を進めるとともに、SDGs への理解を促していく
- 採択事業を、SDGs を活用した地域での取組モデルとして整理し、社会に広く発信していくことを予定している。

里山ウェルネス研究会（2018年3月設立）

所在地：飯山市大字豊田1105 「いいやま里の家」

目 的：本会は、里山体験や森林に関わる事業を通して健康生活を提案し、高齢者支援、障がい者支援等を行うための団体である。里山に関わるライフスタイルから、エネルギー、循環型社会を考慮した地域づくり・街づくりを応援するために行政や企業と連携、意見交換、支援、政策提言を行います。

事 業

- （1）森林セラピー等による認知症予防促進事業
- （2）里山体験を通じた障がい者雇用促進事業（林福連携事業）
- （3）里山体験を通じた環境教育事業
- （4）行政、企業等への政策提言事業
- （5）人材育成及び雇用促進サポート事業
- （6）地域住民への体験活動やセミナーの企画・開催

里山ウェルネス研究会の林福連携事業

森林(もり)づくり(里山保全・林業)と福祉の同時解決

課題① 里山整備等で出た間伐木材の利用が進まない。

課題② 障がい者等の就労就労支援においては、実習先の確保等が課題。

課題③ 冬の期間（積雪期）における林家や林業従事者の収入減少



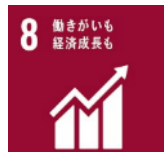
林業家と障がい者の自立支援NPOが連携した取組



間伐材の未利用木材商品の付加価値と障がい者支援

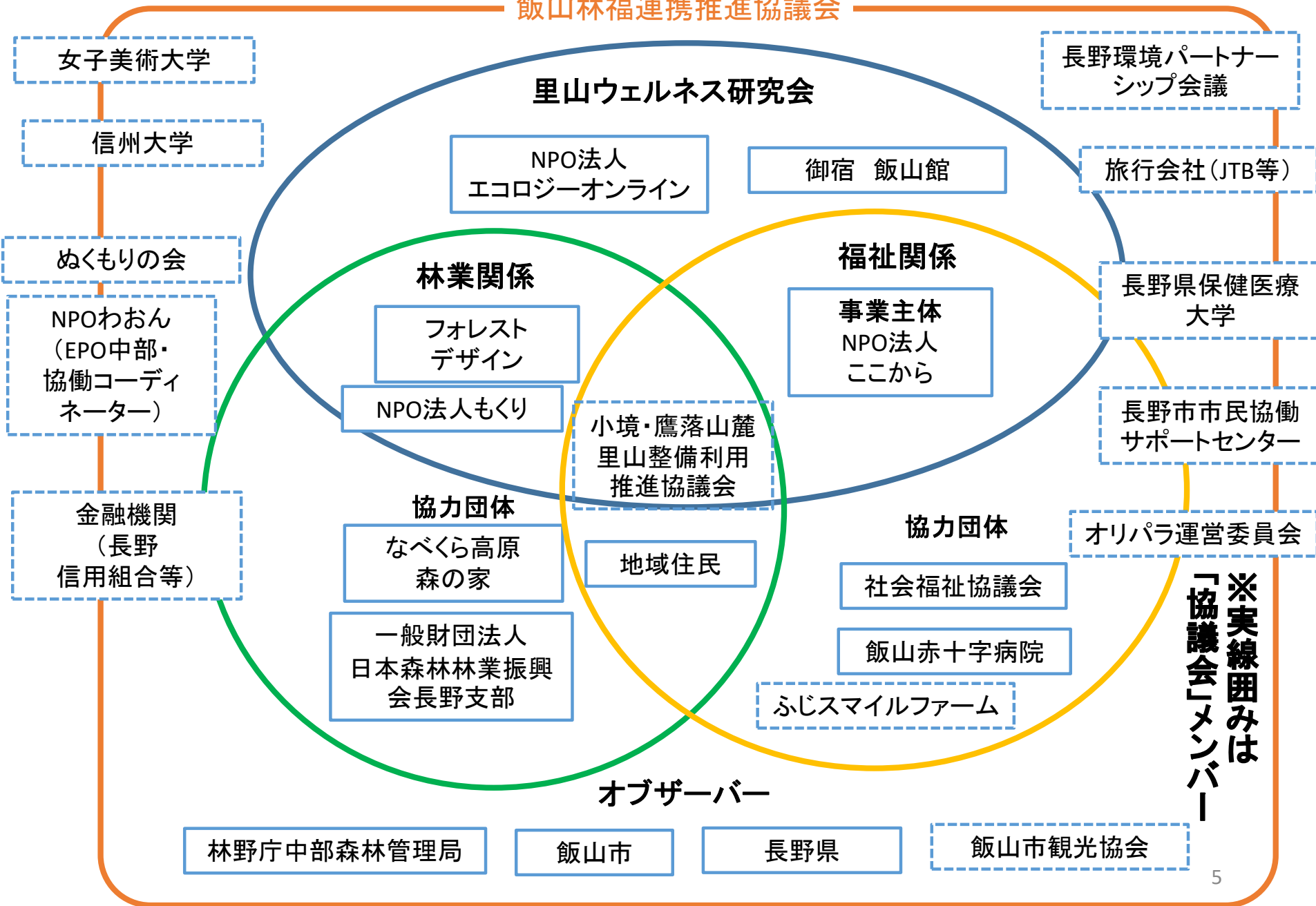


- ① 未利用木材の新しい活用方法、林業家の新たな収入源の確保
- ② 福祉施設入所者等の新しい支援先、支援方法の開発
- ③ 里山への地域の関心向上、里山保全へ



ステークホルダーとの関わり

飯山林福連携推進協議会



飯山ログファイヤー

明かり、コンロ、
暖取り ひとつで3役

＜ForestGood2018間伐・間伐材利用コンクール審査委員長奨励賞受賞＞

ログファイヤーは、上部を加工して、大幅に
着火スピードを向上！（特許取得！）



＜大きさ別の参考価格＞

サイズ	直径	長さ（高さ）	価格（円：税込）	
			皮付き	皮なし
小	12cm以上18cm未満	20cm～30cm程度	1,500	1,900
中	18cm以上24cm未満	30cm～40cm程度	2,700	3,400
大	24cm以上30cm未満	40cm～50cm程度	4,500	5,400
特大	24cm以上	50cm以上	要相談	要相談

燃焼実験等を実施して＜規格基準＞を設定

基本寸法：直径：20～25cm程度・長さ：35～45cm程度・含水率：20%以下 6

2年間の主な活動

協議会と報告会の開催



平成30年7月にNPO、市民、企業、行政等で飯山林福連携協議会を発足させ、平成30年、31年度ともに年間4回協議会を開催。

各年最後には事業の報告会とセミナーを開催。

地域住民等へ製作講座の開催



地域における本事業の活動への理解と新たなログファイヤー製作の担い手の育成を目指した製作講座と交流会を開催

飯山市内のイベントで活用



小 境 地 区 の 夏 ま つ り
い い や ま 雪 ま つ り
い い や ま か ま く ら ま つ り
などで活用

交流会の開催



いいやま里の家にて、地域の人とログファイヤーを囲んだ交流会を開催

<ログファイヤー製作工程の障がい者(精神障害)の作業実証事業>



作業や支援施設担当者と相談しながら使用する
工具や安全具の使用などを模索

◎使用した主な道具

- ・曲面カンナ・ナタ・皮はぎ鎌
- ・ベルトサンダー・両手皮剥



<利用者の感想>

- ・とてもやりがいがあった。こんな仕事をしてみたい。
 - ・やりやすい道具も作ってくれて良かった。
 - ・腰が痛かったけど、楽しかった。・やりがいがあった。
 - ・始めは緊張したけど、少しずつ慣れていった。
- まだ、緊張はするけど、楽しかった。(3回参加)

<支援員の感想>

皮むき作業の体験と道具の選定ということで活動することができ、利用者の中で作業に対する心構えができたのは良かった

- ・緊張しやすいという特性の方たちが、作業を通じて他の人と関わり、指導を受けていくにつれて、少しずつご本人が自信をもって活動していく様子が見られた。

活動のしくみ

里山ウェルネス研究会

NPO法人
エコロジーオンライン

御宿 飯山館

事務局運営・広報担当

地域メディア
WEB配信

PR

課題
未利用地域材の活用
地域の森林活性
林業家の収入
自立支援のサポート
自立支援作業の拡大

林業家・生産元
フォレストデザイン



作業の一部
業務委託
＜支援＞

障がい者・自立支援
NPO法人ここから



販売

防災・環境教育・アウトドア

教育機関

キャンプ施設等

地域住民・町内会

特産品・ふるさと納税

飯山市

長野県

カタクリが生育しはじめた
事業拠点エリアの里山



本事業での位置づけ

「飯山ログファイヤー」

障がい者等が加工・生産作業を行ったログファイヤーと位置づけ

「飯山ログファイヤー」の付加価値として発信していくこと

着火しやすい、保存に適しているなどの機能面に加えて、障がい者の方たちが加工・生産作業を行っていること

- 福祉施設の人がログファイヤー生産の加工に携わる生産のため1人を新規雇用
- 福祉施設の人が2年間で約25人が加工作業を行い、飯山ログファイヤー約50本を生産・加工
- 障がいのある方の生活の場の増加、選択肢の増加



【課題】間伐された木材利用が進まない

- ・里山の手入れの不足
- ・資源循環が進まない
- ・冬の雪の量が多い

環境

■障がい者の「森の利用」にもつながっている

- 地域の人が地元の里山・森・木に関心をもつように；里山の林道整備等(地域側も一部事業費負担あり)にも地域住民の賛成で促進へ

■里山の間伐した場所にカタクリが生育しはじめた

■ログファイヤー販売(全国)展開

- 地元キャンプ場、ホテル等から発注の動き

■未利用間伐材に価値を付加

- ログファイヤー製作体験会で地域の林業家や住民にログファイヤーの製作方法を普及(計13人が参加)

- ログファイヤーの規格を明確化

- 飯山ログファイヤーの地域イベントでの活用

経済

【課題】冬期の林家及び林業従事者等の収入の減少

- ・冬場の働き場の不足
- ・新しい木材製品が生まれてこない
- ・地域経済循環が少ない



社会

■「森林サービス」産業の取組

→新たな飯山版「里山サービス」のスタート

【課題】障がい者の雇用支援の不足

- ・里山の整備人口の高齢化、里山の整備人口の減少
- ・地域住民の意識の低下
- ・地域でのつながりが少ない
- ・障がい者の受け入れ場不足

<作業した障がい者・施設スタッフの声(作業検証アンケート結果より)>

■楽しかった。始めは難しかったけど、やりやすい道具も作ってくれて良かった。■はじめは緊張したけど、少しずつ慣れていった。まだ、緊張はするけど、楽しかった。■施設から出たの作業は利用者のモチベーションが上がったように感じた。■作業を通じて他の人(林業家)と関わり、指導を受けていくにつれて、少しずつご本人が自信をもって活動していく様子が見られた。

間伐材の活用＋森林空間の活用 →地域の里山に対する関心向上、関係人口の創出

2年間に実施したこと

これから実施予定のこと

大学と連携して森林空間における認知症予防プログラムの実証研究

飯山市と連携して森林セラピー事業（従前から展開）

里山の維持管理に利用する林道を整備（県事業）

大学と連携して間伐材を活用した古民家建築プロジェクト

NPOの里山活用プロジェクト「森カフェ」インストラクター養成講座でログファイヤー活用予定

里山・森林空間を活用した環境学習プログラムづくり

障がい者が加工作業を行ったものを「飯山ログファイヤー」と命名

障がい者のやりがいづくりとして作業者「コメントカード」を実施予定

障がい者の作業の安全確保のための「治具」の工夫・開発（継続中）

障がい者の作業実証
⇒作業の安全性・使いやすしい道具などを検証

作業に参加した障がい者、支援NPO等への意識調査

飯山市内のほかの福祉施設・団体による実証の継続

多様な里山活用
＝新たな「森林サービス」の提供

環境

■里山の間伐材の活用
■森林「空間」の活用

障がい者の里山活用

里山の間伐材の活用

ログファイヤーの開発・生産

社会

■障がい者による木材加工品づくり
■障がい者の居場所づくり
■地域住民の地域課題への関心向上

経済

■新しい地域産品「飯山ログファイヤー」の開発・販売
■里山・森林を活用した新しい観光プログラム等関係人口創出

「飯山ログファイヤー」の付加価値として
障がい者による加工作業 着火しやすい工夫（特許取得）

大学生の出張カフェサークルにログファイヤー提供

ログファイヤーの全国販売（日本森林林業振興会との提携手続き中）

ログファイヤーの「ふるさと納税」登録（手続き中）

ログファイヤーのオリパラ活用（現在、関係機関と協議中）

ログファイヤーの標準サイズ等規定づくり

ログファイヤー製作手順マニュアルづくり

旅行会社に里山体験プログラム提案

ログファイヤー使用者への利用意向調査

燃焼実験
⇒含水率別の着火時間の計測

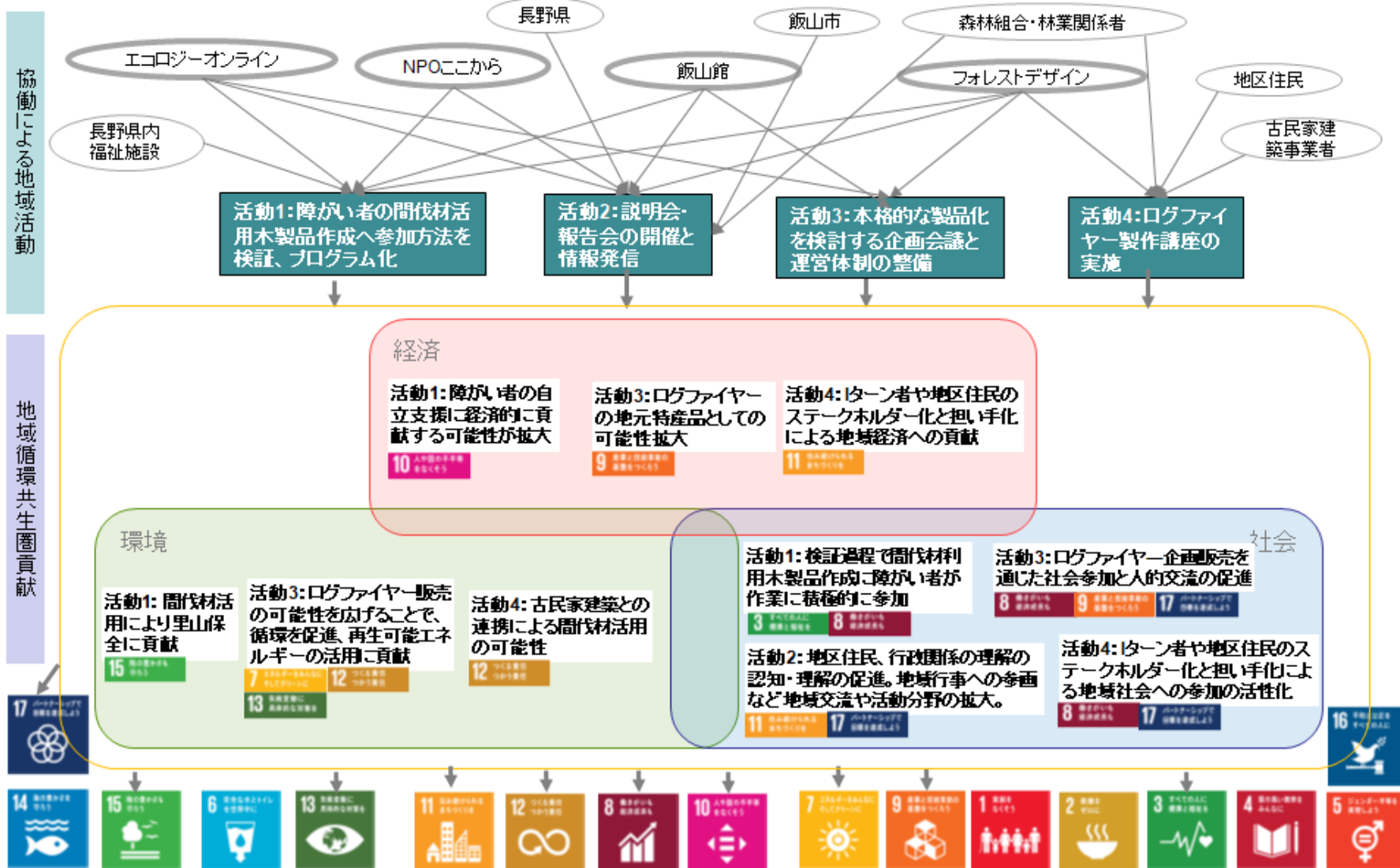
林業家・地域住民を対象にログファイヤー製作講座開催
⇒ログファイヤーの製作方法の普及と地域材化

ログファイヤーの開発・販売
↓未利用間伐材の活用と付加価値創出

障がい者による作業Ⅱ自立支援
↓付加価値として発信

里山ウェルネス

①森林保全のために間伐された木材利用が進まない②障がい者雇用支援の不足③冬期の林家及び林業従事者等の収入減少の課題に対し里山ウェルネス研究会設立。環境省「持続可能な開発目標(SDGs)活用した地域の環境課題と社会課題を同時解決するための民間活動支援事業」に選定され、関係団体を組織化しログファイアー(間伐材活用の木ろうそく)などの間伐材加工に障がい者が参画する林福連携プログラムを開発し里山地方の地域活性化を図るモデルを創出することとした活動を推進。



EPO中部・原(2019)

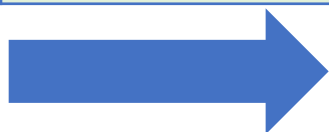
今後の活動にむけて

①ログファイヤーの活用

今後の展開	内容
「森カフェ」講座等での飯山ログファイヤー活用	里山空間活用プロジェクト「森カフェ」主宰団体NPOわおんとの連携による森カフェでのログファイヤー活用の定着・ツール化
地域イベント等での飯山ログファイヤーの活用・PR	地域の祭りでの奉納、かまくらまつり等イベントでの定番化、出張カフェ学生サークルとの提携展開など
全国各地での普及	林野庁と協働で、国有林を活用したログファイヤーを製作・普及を行う
障害スポーツの場での活用	まず、2020パラリンピックにおけるログファイヤー活用へ
福祉事業研修の場への発展	障がい者だけではなく、引きこもり者や高齢者などのほかの福祉における研修の場への発展。

②新たな森林活用・地域活性化に向けて

大学等と連携した森林活用プロジェクトの継続と新たな展開	信州大学建築学科学生との間伐材を活用した古民家づくりのプロジェクト、そのほか環境学習プログラムづくり
森林環境を活用した認知症予防の取組の中心拠点づくり	東北医科薬科大と連携した認知症予防における非薬学療法の可能性を探る研究の実施体制作りを開始(今春から開始予定)
SDGs、環境教育等の研修の場づくり	旅行会社(JTB)販売員向けサイトや教員向けサイト等へのプログラム登録
里山と地域を結ぶの新しいプラットフォームづくり	里山ウェルネス研究会による森林と地域(人)を結ぶソーシャルビジネスプラットフォームへの進化
干し柿を使ったお菓子を開発	地区内にたくさんの柿の木が植えられており、アウトドア等の旅行で来られた方へのカロリー補給やお土産として提供。



山づくりの取組でも一番を目指す組織へ
(飯(米)でも一番、山(森林)でも一番を実現する飯山プラットフォームへ)